助太刀総研

職人の声生かし課題解決

DX推進と健全化で勉強会

助太刀は25日、東京都新宿区の京王プラザホテルで「第4回建設DX推進と健全化に関する勉強会」を開いた＝写真。同社の助太刀総研（植村具民所長）を通じて共同研究している京大金多・西野研究室の金多隆教授のほか、津島淳衆院議員、国土交通省、建設業振興基金、建設経済研究所、ゼネコン各社など建設業に関わるステークスホルダー約30人が参加し、2024年問題など建設業従事者が抱える課題について議論した。

助太刀総研は、登録事業者数19万人超の建設業向けマッチングプラットフォーム「助太刀」を通じて得られる知見を建設業界の改善に役立てるため、外部の有識者や第三者機関と調査・研究し、データ提供を行っている。これまで直接意見を聞くのが難しかった職人や工事会社にアンケートし、研究に生かしている。

4回目となる今回の勉強会は、冒頭に来賓の津島衆院議員があいさつし、「建設業はさまざまなプロジェクトを進めてきたが、人手不足に直面しており、業界を挙げて若者を増やし、技術を継承する必要がある。生産性を向上するため、デジタルを活用した〝新しい当たり前〟をつくることが大きなテーマだ」と強調した。

その後、助太刀ユーザーに「賃金」「労働実態」「キャリア」をテーマに実施したアンケートを基に、週休2日制、年代別年収、建設キャリアアップシステムの認知度などの調査結果を共有し、24年問題や恒常的な人手不足の解決に向けて意見交換した。

勉強会には、行政関係者として国交省、建設業振興基金、建設経済研究所、建設事業者として鹿島、竹中工務店、きんでんが参加した。運営をサポートする金多・西野研究室の西野佐弥香京大准教授、田中聡立教大経営学部准教授らも出席した。